

運用先市場の状況

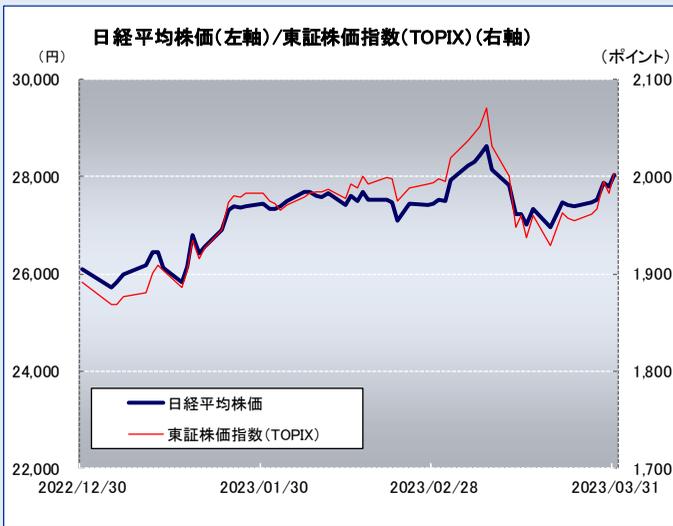
国内株式市場および国内債券市場 2023年1月~3月

作成基準日 2023年3月31日

○国内市場

・株式市場

1~3月を通して見ると、国内株式市場は上昇しました。
 1月、国内株式市場は上昇しました。日銀の金融政策の現状維持を受けた円高の一服、ゼロコロナ政策解除を受けた中国景気の回復期待などが、株式市場上昇の背景となりました。
 2月、小幅に上昇しました。FRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め長期化懸念は重石となりましたが、米ドル高・円安が進んだことや、日銀の金融緩和策が当面続くとの見方が広がったことが下支えとなりました。
 3月は、上昇しました。米国での銀行破綻に欧州での大手金融機関の経営不安の報道が重なったことで金融不安が広がり下落する局面がありました。しかし、各国金融当局の対応を受けて安心感が広がり反転し、上昇しました。

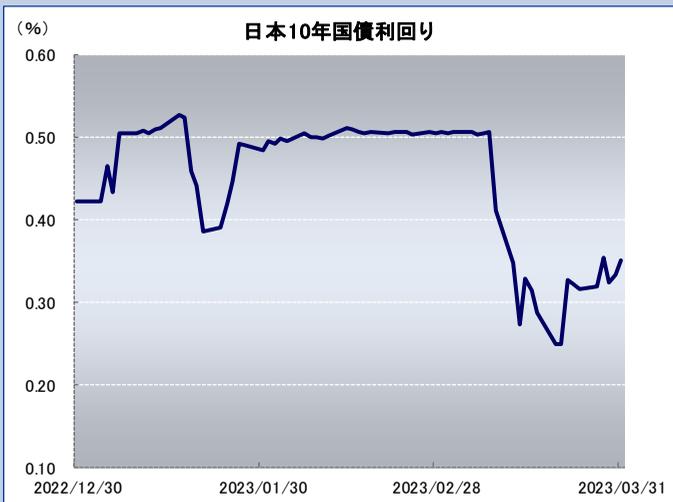


(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



・債券市場

1~3月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は低下(債券価格は上昇)しました。
 1月、長期金利は上昇しました。日銀の金融政策修正に対する警戒から金利は上昇しました。日銀が政策を据え置くと低下しましたが、物価指標の上振れなどから月末にかけて再上昇しました。
 2月、長期金利はほぼ横ばいとなりました。中旬に次期日銀総裁に植田氏の案が浮上、概ね現行政策を継承する姿勢が示されましたが、金利にはやや上昇圧力がかかりました。
 3月、長期金利は低下しました。欧米の金融機関の経営不安の報道が重なって金融不安が広がり、長期金利は低下しました。しかし、各国金融当局の対応を受けて安心感が広がり金利は反転し、低下幅を縮小しました。



(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

運用先市場の状況

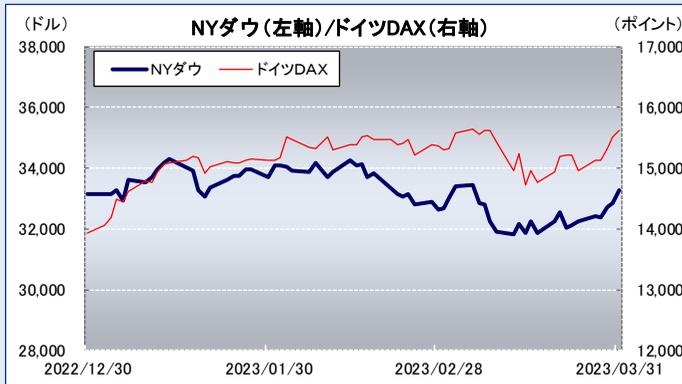
外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2023年1月~3月

作成基準日 2023年3月31日

○外国市場

・株式市場

1~3月を通して見ると、欧米ともに株式市場は上昇しました。
 1月、米国株式市場は上昇しました。景気減速や物価上昇鈍化が示唆されて利上げへの警戒感が後退したほか、欧州のガス価格下落や中国のゼロコロナ政策の終了などが上昇要因となりました。
 2月、米国株式市場は下落しました。FRBの金融引き締め長期化懸念が重石となりました。
 3月、米国株式市場は上昇しました。米国での銀行破綻に欧州での大手金融機関の経営不安の報道が重なったことで金融不安が広がり下落する局面がありましたが、各国金融当局の対応を受けて安心感が広がり反転し、上昇しました。
 欧州株式市場も、期を通じて見ると米国と同じような動きとなり、上昇しました。

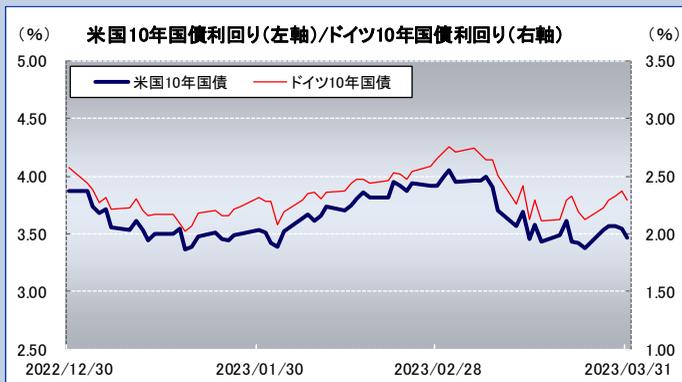


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

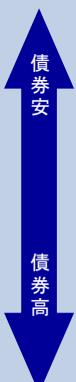


・債券市場

1~3月を通して見ると、欧米の長期金利(10年国債利回り)は低下しました。
 1月、米国の長期金利は低下しました。FRBは利上げを実施しましたがインフレ抑制を重視する姿勢は強めず、金利は低下しました。
 2月、米国長期金利は上昇しました。FRBの金融引き締め長期化懸念が金利押し上げの要因となりました。
 3月、米国長期金利は低下しました。金融不安から長期金利は低下しました。その後、各国金融当局の対応を受けて金利は低下幅を縮小する動きとなりました。
 ユーロ圏でも、長期金利は前期末比で低下しました。

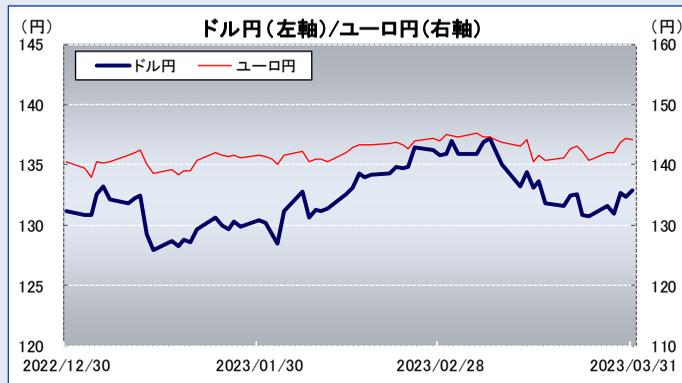


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



○為替市場

1~3月を通して見ると、米ドル、ユーロともに対円で上昇しました。
 1月、米国金利の低下や日銀の金融緩和修正観測を背景に、米ドル安・円高となりました。
 2月は、米ドル高・円安となりました。FRBの金融引き締め長期化懸念や、日銀の次期総裁候補の植田氏が金融緩和策を続ける意向を示したことが要因です。
 3月は、米ドル安・円高となりました。欧米での金融不安により投資家心理が悪化し、円高となりました。月末にかけて金融不安が和らぎ、やや円安となりました。
 ユーロ/円も、期を通じて見ると、ユーロ安・円高となりました。欧州での利上げペース減速観測もあり、ユーロ安・円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。